

## 第1学年 国語科学習指導案

日時 平成24年11月21日（金） 5校時

学級 遠野市立綾織中学校1年

（男子7名 女子4名 計11名）

授業者 遠野市立綾織中学校 教諭 高橋千枝子

共同研究者 遠野市立青笹小学校 教諭 西野 裕信

遠野市立青笹中学校 教諭 吉田亜矢子

1 単元名 語り手に着目して小説を読み、作品のよさを紹介しよう

2 学習材名 『少年の日の思い出』 ヘルマン・ヘッセ 高橋健二訳 （光村図書 国語1）

### 3 単元について

#### (1) 生徒について

これまで生徒は、文学的な文章の学習で、登場人物の行動や性格に基づき、場面の展開に即して変化  
する気持ちをとらえることを学んだ。また、登場人物の相互関係から人物像をとらえることが、内面  
にある深い感情をとらえることにつながることも理解した。さらに今年度、『星の花が降るころに』では、  
優れた叙述について自分の考えをまとめることもしている。

しかし、生徒の実態として、文章を動的にとらえその展開を把握したり、様々な形態の文章の構成や  
展開、表現の特徴を分析的にとらえ、その工夫や効果について自分の考えをもったりした経験は少ない。  
本単元を通じ、小説を概括的に読むこと、視点を定めて読むことを経験することで読む力を高め、さら  
に読書によって文学作品を味わおうとする態度を養いたい。

#### (2) 学習材について

本学習材は、60年以上の長きにわたって中学校の教室で読み継がれてきた名作である。ドイツを舞台  
とした翻訳文学であるにもかかわらず、情景や心理の描写が美しく豊かで、文学性が高い。また、スト  
ーリー展開も、多感な少年期を迎えている中学生が共感をもって読み深めることができる。ちょうに対  
する熱情、盗みを犯しちょうをつぶしてしまった罪悪感や絶望感、隣の少年や母親との葛藤や交流、そ  
して自らの手によるちょうとの決別。また、この「僕」の思い出話は、成人となった「僕」が「わたし」  
の「客」として語っており、全体は現在→過去→現在（明示的には書かれていない）という構造を成し  
ている。このように、生徒が作品のよさを発見・表現するのにふさわしい事柄をたくさん含むものであ  
り、これからの読書生活へのつながりが期待できるものである。

#### (3) 指導について

この小説を活用して指導するときの大きな視点を次のように考えた。

① 「文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつ」（読むこと エ）力を付けるため  
に、「課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介する」（言語活動例 ウ）言語活動を通し  
て指導する。

② 小説を読む入門期であることを鑑み、小学校での同系統の指導事項をよくふまえると同時に、文章  
を「僕」の思考の流れや登場物の心情の変化に沿って動的にとらえ、その展開を把握することができ  
るようにする。

③ 自分が紹介したい視点で読み返し、さらに、読書ポスターのレイアウトを工夫することを通して、  
作品のよさを分析的にとらえ、その工夫や効果について自分の考えをもつことができるようにする。

### 4 単元の目標

#### (1) 国語への関心・意欲・態度

○ 作品のよさを発見し、その内容を進んで紹介しようとする。

#### (2) 読むこと

◎ 文章の構成や展開、表現の特徴などを分析的にとらえ、自分の考えをもって、作品を紹介すること  
ができる。

○ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して文章を読み、紹介したい部分を決めることができる。

#### (3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

○ 文章を読んで意味の分からない語句を辞書で調べ、文脈上の意味を考えることができる。

5 単元の評価規準

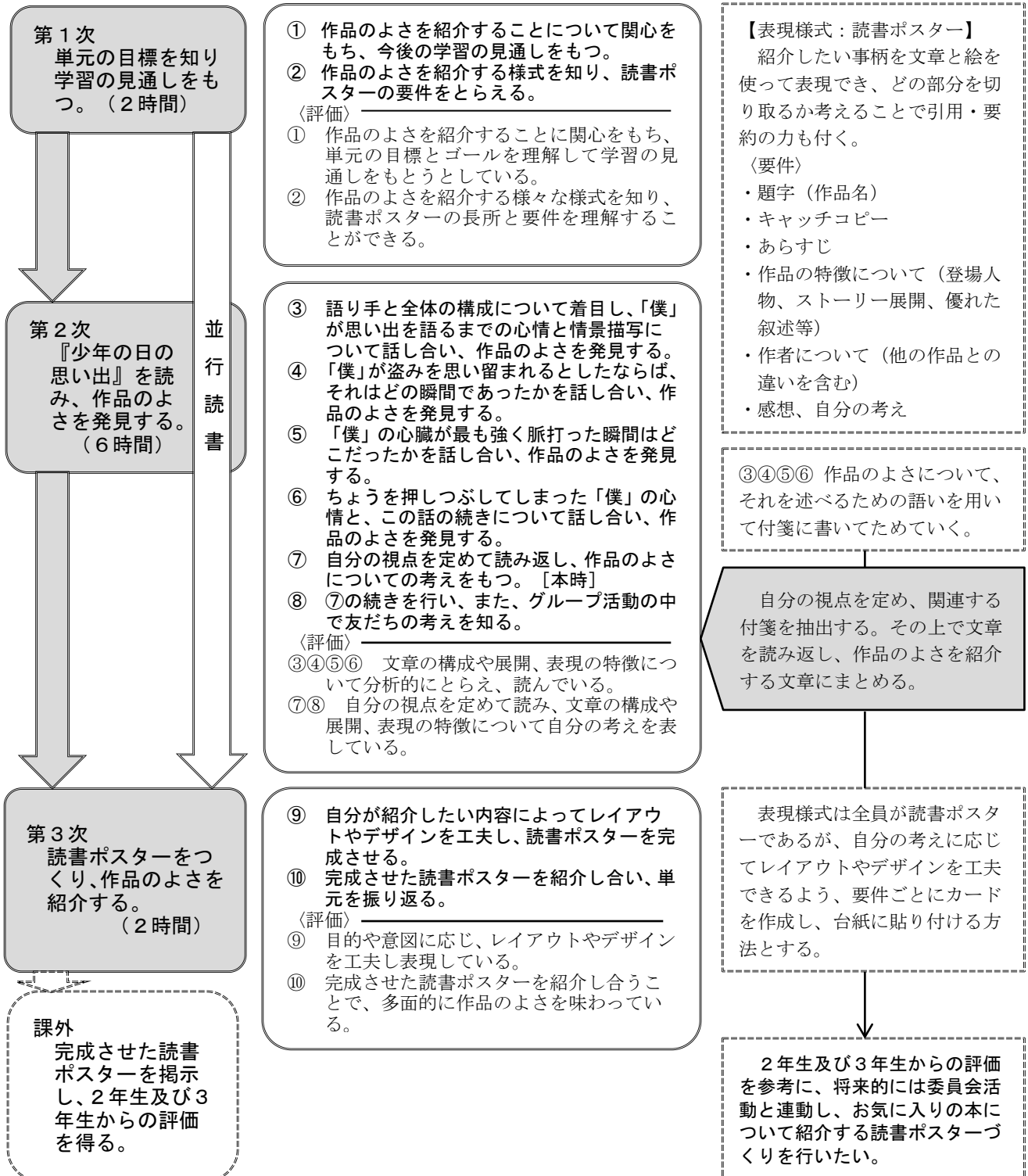
国語への関心・意欲・態度	○ 作品のよさを発見し、読書ポスターを通して進んで紹介しようとしている。
読む能力	◎ 作品のよさを述べるための語いをを用いることで文章の構成や展開、表現の特徴などを分析的にとらえ、自分の考えに応じて、作品を紹介している。(エ) ○ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して文章を読み、紹介したい部分を付箋に表している。(ウ)
言語についての知識・理解・技能	○ 文章を読んで意味の分からない語句を辞書で調べ、文脈上の意味を考えている。(イ(イ))

6 学習指導計画 (全10時間)

【主な段階】

【主な学習活動】

【主な指導の手だて】



7 本時の指導 (7/10)

(1) ねらい

作品のよさを紹介するために、自分の視点を定めて文章を読み返し、紹介のための語いをを用いて表現することができる。

(2) 評価規準

自分の視点を定めて読み、文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えを表している。  
(読む能力 エ)

(3) 展 開

	学習活動	学習内容	指導の手だてと評価
導 入  5 分	1 本時の学習課題を把握する。  自分が最も伝えたいことを決めて、『少年の日の思い出』のよさを紹介しよう。		○ 本時の位置付けを確認し、本時の学習の見通しをもたせる。
展 開  40 分	2 学習課題を解決する。 (1) 書きためてきた付箋を整理して、自分の視点を定める。  (2) 全文を読み返しなが ら、紹介のための構想を 練る。  (3) グループ(同じ視点で 読んだ者同士)で、作品 のよさや紹介の仕方につ いて話し合う。  (4) 作品のよさを紹介文 にする。	【視点】 ※作品のよさを述べるための語い ・人物設定(登場人物) ・場面設定 ・心情表現 ・情景描写 ・ストーリー展開 ・全体の構成 ・表現(言葉の使い方) ・セリフ ・心情の変化 ・主題(読者として受け取ったメッセージ)  【紹介の仕方】 ・紹介文 ・150字から200字程度 ・作品のよさを述べるための語いをを用いる  【話し合う観点】 ・作品のよさはどんなところか ・紹介のための根拠が具体的に分かりやすいか ・文章全体の展開をふまえているか	○ 1枚のワークシートに貼りためてきた付箋の中から、紹介したい内容について抽出する。その過程で自分の視点を定め、必要な付箋をさらに取捨選択するようにする。  ○ 読み返ししながら新たな発見があった場合には、さらに付箋を加えていくようにする。  〈評価と評価方法〉◇支援 自分の視点を定めて読み、文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えを表している。 〈評価方法〉 300字詰め原稿用紙に、発見した作品のよさが具体的に表現されているかについて、加点的に評価する。 ◇ 書き始めることが難しい生徒には、モデルのポスターの紹介文と基にした付箋を照らし合わせて、文章構成の例を示す。
終 末  5 分	3 学習をまとめる。 (1) 自己評価する。  (2) 次時の確認をする。		○ 本時の学習の前後の変化や、友だちの話から学んだことがあったのかを振り返ることができるようにする。 ○ 次時は、本時の続きを行うことを確かめ、意欲や見通しをもたせるようにする。